



図4 HPV検査で一次検査を行う今後の子宮頸がん検診プラン

3. HPV ワクチン

ハイリスク型 HPV の中で 16・18 型に対するワクチンが開発され、60 - 70%の子宮頸がんが予防できることが期待されています。欧米などでは、若い世代へ接種がすでにされています。日本でも、2010 年から希望者に対する自費接種が始まっています。幸い、名古屋市は他の政令都市に先駆けて中学 1・2 年生に対する公費による接種を開始しました。とくに若い婦人は HPV ワクチンを接種する事をお勧めします。(図 5)

- 発がん性HPVは感染してもほとんどは自然に排除されますが、何度も感染します。
- 成人女性でも、ワクチンを接種することで、再感染を防ぐことができます。



図5 HPVワクチンを接種しましょう

4. 全タイプ型の HPV ワクチン

すべてのハイリスク型 HPV を予防できるワクチンの開発が、日本を含めた全世界で進んでいます。この次世代ワクチンが完成すれば、すべての子宮頸がんを予防できる可能性があります。

5. HPV 感染に対する治療ワクチン

前がん病変である子宮頸部異形成は、HPV が感染した状態と考えられます。HPV 感染を治療できるワクチンの開発が試みられています。この HPV 治療ワクチンにより、子宮頸がんを前がん病変の状態の治療できる可能性があります。

全タイプ型の HPV ワクチンや HPV 治療ワクチンの開発を待ちつつ、現在ある HPV ワクチンの接種や HPV 検査を含めた子宮頸がん検診を行って、子宮頸がんの予防に努めましょう。

発行が遅れたことをお詫び申し上げます。

次回シリーズ 乳がん	2011年5月開始予定
この内容は、名古屋掖済会病院ホームページでもご覧頂けます。	えきさいかい

名古屋掖済会病院は、愛知県「がん診療拠点病院」の指定を受けました。